

文化的景観を構成する要素の特性 (その4)

一別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究一

正会員 ○姫野 由香\* 森下 泰敬\*\*\*  
佐藤 誠治\*\* 甲斐 一樹\*\*\*

文化的景観 生活・生業 景観構成要素  
湯けむり 温泉

1. 研究の背景と目的

本研究の「背景と目的」は前報その3に示すとおりである。本報その4では、紙面の都合上、2地区のうち主に「鉄輪温泉地区」に関わる住民や旅館経営者、観光客等の様々な主体が、各要素やそれらの近傍で営んでいる生活や生業の様子を、ヒアリング調査と実態調査により明らかにする。その結果、当該地区の景観の形成メカニズムを明確にすることを目的としている。

2. 主体ごとの空間利用の傾向 (鉄輪温泉地区)

図1はヒアリング調査により明らかとなった主体ごとの動線、行動を図化したものである。この図から、3つの「共同温泉」<sup>注1)</sup>をつなぐ道沿いに人の動線が集中していることがわかる。長期滞在者は地区内で買い物をするため「小売商店」を利用しているが、他の主体者は安価で品揃えの良い大型量販店を利用し、不足分を補う場合な

ど稀に利用するに留まっている。ゆえに「小売商店」の利用が人々にとって日常的であるとは言い難く、地域内には廃業した「小売商店」がいくつかみられる。しかし、現在でも営業を続けている「小売商店」は、「地獄釜」を用いて調理した食品を販売するなどして[長期滞在者][飲食店店主]等の利用客を得ている。

「共同温泉」の利用に関しては、内湯を持つ住民は内湯や、私営温泉を好んで利用する住民がいる。滞在者も宿泊先の内湯を利用することが多く、自ら積極的に「共同温泉」を利用することは少ない<sup>注2)</sup>。一部の住民は毎日定刻に「共同温泉」を利用する様子が確認できている。また、入浴だけでなく、定刻に訪れる顔見知り同士が会話や情報交換を行うことが目的で、毎日利用する住民も観察されており、現在でも「共同温泉」の利用が生活の一部となっていることを明示している。

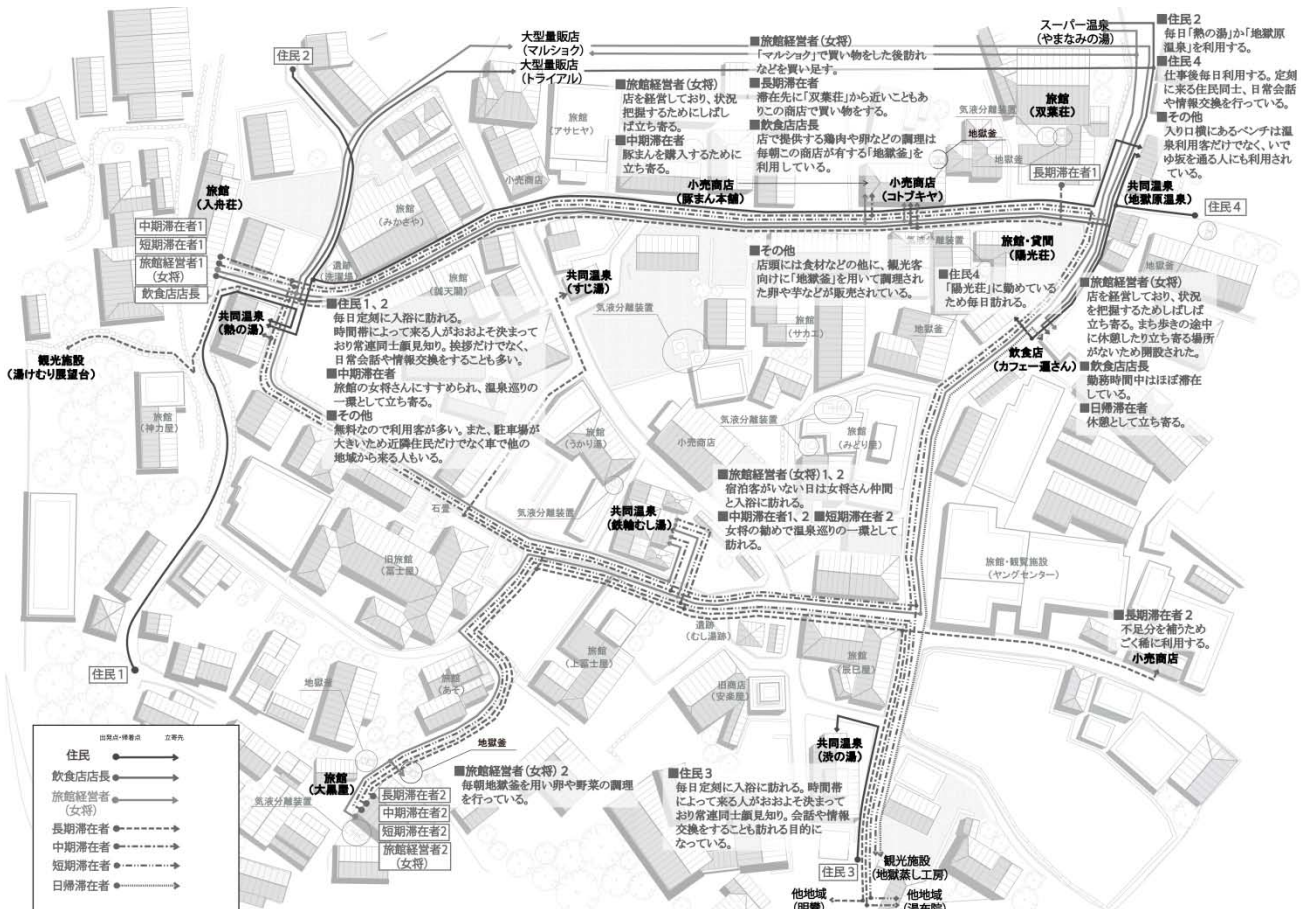


図1 各活動主体の生活・生業による空間利用の軌跡図 (鉄輪温泉地区)

Characteristic of the Elements constituting the Cultural Landscape.

MORISHITA yasutaka, HIMENO yuka  
SATO seiji, KAI kazuki

### 3. 主体ごとの空間利用の変遷（鉄輪温泉地区）

表1はヒアリング調査や歴史調査により明らかとなった主体者ごとの空間利用の変遷を図化したものである。表1において、地区の景観を構成する主要な要素に関する項目を●「小売商店」★「共同温泉」■「旅館」として示している。以下にその利用の変遷を考察する。

●「小売商店」：湯治場として栄えてきたこの地区の「小売商店」は観光客、湯治客、旅館関係者や住民に利用されていた。しかし、現在に至るまでに需要が大きく低下してきている。これらの要因として、【交通の変化<sup>注3)</sup>による大型量販店の出現】、または【地区外への行動範囲の拡大】が主に考えられる。そのなかで現存している「小売商店」は、他にはない付加価値のある「小売商店」であることがわかる。例として、「地獄釜」を利用して蒸した野菜や卵などを販売しているなどである。

★「共同温泉」：約60年前は、地区内にいるほぼ全ての人々が「共同温泉」を利用していた。そこでは、湯治客、観光客や住民など地区内の人々が集まり、重要なコミュニケーションの場であった。しかし、1950年頃からのボーリング技術の発達により旅館や住宅にも内湯が設置されるようになってきた。これにより現在、「共同温泉」の需要が低下してきている。また、地区に住む住民は他の住民との会話や情報交換が目的で毎日利用することは現在でも変化はない。このように、1950年以前に比べて需要は低下してきているが、現在でも「共同温泉」は生活の一部であるといえる。

■「旅館」：「共同温泉」を中心に湯治場を形成してきた鉄輪温泉地区は、1910年頃に【別府の観光業が発達】することで旅館や貸間が増加した。また、交通の変化【九州横断道路の開通】【関西汽船の高松港休止】が1960年以降に起こった。前者により、道路沿いには大型旅館が建設され、さらに後者によって地区内の小規模旅館が衰退していった。

### 4. 総括

本研究では、まず特徴的な構成をもつエリアにおいてヒアリング調査を行い、住民や旅館経営者、観光客等の主体者の行動や生活・生業を把握し、その結果を図面に示した。加えて、各要素や空間利用の変遷を年表によって総合的に示し、人々の生活・生業や要素がどのように変化してきたかを整理し把握した。それらの結果、毎日「共同温泉」に入浴をしたり、調理の際「地獄釜」を利用したり、地区内において人々の生活・生業と各要素における関係が現在でも保たれる部分があるものの、住民や旅館経営者の入浴や購買、長期滞在者の飲食等において、利用者のニーズの一部が地区外へ流出していることも明らかとなった。

その一方で、湯治慣習の中ではみられなかった短期滞在者が地区の構成的特徴を示す「地獄釜」や「共同温泉」を1~2泊の滞在中または日帰りで、体験的に利用する傾向にあり、一部の旅館や施設にはこれに応えようとする施設整備の実態も確認できている。つまり、これまでの長期滞在とはやや異なった形態ではあるが、現在も地域の要素（資源）が、営みの中で利用されていることが明らかとなった。

今後「湯けむり景観」を保全するにあたっては、景観を構成している物的要素を単に保存するだけでなく、人々の生活・生業まで配慮した一体的な保存が必要であると考えられる。特に鉄輪温泉地区の生業の中心となっていた湯治といった生業は、時代と共に人々の生活やニーズは変化し衰退しつつある。それらの生業や関係する景観構成要素を如何に扱っていくかは大きな課題であるが、本研究で得られた、当該地域の文化的景観の生成メカニズムの変遷は、保存活用計画における、有益な知見であると考えられることができる。

#### 【参考文献】

- 1) 福井彩乃、佐藤誠治、姫野由香「古写真にみる景観変容と遷移景観の構図的特性 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要な文化的景観指定に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1分冊, pp.981~982, 2009.8
- 2) 別府市教育庁生涯学習課「平成20年度湯けむり景観保存管理のための専門調査報告書」2009.3
- 3) 別府市「別府市誌」第1巻~第3巻, 2003.7
- 4) 森下泰敬、渡邊祥衣、佐藤誠治、姫野由香「景観構成要素と生活・生業の関係性の導出 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要な文化的景観指定に関する研究（その1,2）」2011.3

#### 【補注】

- 注1) 3つの共同温泉とは「熱の湯」「渋の湯」「地獄原温泉」である。  
 注2) ヒアリング調査の結果から、女将の勧めなどでその存在を知り、入浴に行くことがしばしばあることが確認できている。  
 注3) 1964年の九州横断道路開通。

表1 鉄輪温泉地区 活動主体ごとの空間利用の変遷

主体者	観光客	短期・中期・長期滞在者	旅館経営者	住民	商店関係者
観光客	● 共同温泉を利用	● 小売商店を利用	● 地獄釜利用	● 地区内で販売	
短期・中期・長期滞在者	● 一部の湯治場が旅館へへ変化				
旅館経営者	■ 別府の観光業が発達	■ 観光客の増加	■ 旅館や貸間が増加		
住民	▲ 上級地に代わり、ボーリング技術の発達	▲ 気流分館業の設置	▲ 貸間旅館に内湯が併設される	▲ 自宅に内湯が併設される	
商店関係者	▲ 湯治場が旅館へへ変化	▲ 共同温泉利用の減少		▲ 肉湯を利用	
その他	▲ 九州横断道路の開通	▲ 大型旅館が建設される	▲ 関西汽船の高松港休止		
観光客	● 湯治客の激減	● 小規模旅館の衰退			
短期・中期・長期滞在者	● 安価で品揃えのよい大型商店の利用	● 不足な少量の異い物の小売商店を利用			▲ 地獄釜など付加価値のある小売商店が残る
旅館経営者	▲ 地獄釜利用				▲ 地獄釜利用
住民	▲ 私営温泉を利用	▲ 肉湯を利用	▲ 共同温泉を利用		

凡例  
 地区全体に関係する出来事 (黒線)    ハードに関係する変化 (青線)    ソフトに関係する変化 (点線)  
 ● 「小売商店」    ★ 「共同温泉」    ■ 「旅館」    ▲ 「地獄釜」

\*大分大学工学部福祉環境工学学科助教授 博士 (工学)

\*\*大分大学工学部福祉環境工学学科教授 工学博士

\*\*\*大分大学大学院工学研究科博士前期課程 学士 (工学)

\* Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng

\*\* Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng

\*\*\* Graduate Student, Oita Univ.